

(当センター事務局が公表資料をもとに作成)

新しいエネルギー基本計画の要旨 (地球温暖化関連)

1 我が国の課題

△ 新興国の旺盛なエネルギー需要は、温室効果ガスの排出状況の様相も一変させ、世界の二酸化炭素排出量は、約 210 億トン（1990 年）から約 305 億トン（2010 年）に増加した。世界全体の排出量全体に占める先進国の排出量の割合は、1990 年には約 7 割であったものが、2010 年には約 4 割に低下し、先進国と途上国の排出量の割合が逆転した。

2 基本の方針

△ エネルギー政策の要諦は、**安全性**を前提に、エネルギーの**安定供給**を第一とし、**経済効率性の向上**による低コストでのエネルギー供給を実現し、同時に、**環境への適合**を図るため、最大限の取組を行うことである。

△ 我が国は、他国に先駆け、エネルギー効率の改善等を通じて地球温暖化問題に積極的に取り組んできており、優れた技術等を有する我が国は、**技術力で大きく貢献できる立場**にある。このため、引き続き、日本国内のみならず、世界全体の温室効果ガス排出削減への貢献を進めていくことが重要である。

3 長期的・計画的に講ずべき施策

△ 我が国は 1970 年代の石油危機以降、エネルギー効率を 4 割改善し、世界的にも大きくリードしている。**省エネルギーの取組**を、部門ごとに効果的な方法によってさらに加速していくことで、温室効果ガスの排出抑制を進めていくことが重要である。

△ **再生可能エネルギー**については、2013 年から 3 年程度、導入を最大限加速していき、その後も積極的に推進していく。再生可能エネルギー等関係閣僚会議を創設し、政府の司令塔機能を強化するとともに、関係省庁間の連携を促進する。

以上